

看護師さんたちに聞いてみました

スタッフ全員が患者さんとの コミュニケーションを 大切にする透析センター

岡山中央病院

服部 瑠子 透析センター スーパーバイザー (SV)

江木 啓子 (CAPD担当看護師) 透析センター グループリーダー (GL)



左:服部SV, 右:江木GL

服部SVは看護師として臨床に関わるだけでなく、腎不全保存期から透析に至るマネジメント全般を統括する役目も請け負っています。透析センターでは江木GLを中心とする看護師6名と臨床工学士6名の全員がCAPDの知識を持てるようにとバクスターが開催している看護師のためのCAPD教室、「ナースカレッジ」などに参加して勉強しています。「私たちは真摯なコミュニケーションが患者さんの信頼を得る第一歩だと考えています。患者さんがCAPDを開始してから特に看護師との関わり合いが増えますし、重要になってきます。透析センターで

は看護師だけでなく、正しい知識を身につけた臨床工学士も検査データ値を管理して、それをもとに患者さんがわかりやすい図表を作成したりと治療に参加しています。また、「UVフラッシュ」などの機器がきちんと作動しているかどうかの確認を外来時におこなっています。このように、さまざまな専門性を持つスタッフと患者さんが関わり合うことによって、患者さんの精神面・身体面での問題の見落としを防ぐことを目標としています」と服部SV。

また、江木GLは患者さんが自宅で元気に日常生活を送ることができるように、透析導入後の年間スケジュールや自宅で発生しやすいトラブルとその予防方法を図解入りで説明するパンフレットを作成し、配布しています(写真2)。

「治療の主役はあくまでも患者さんです。私たちは患者さんの自立心を妨げないように、可能性を限定しないように脳からの支援をするためにいます。そのかわり、患者さんが困っているときには全力でサポートできるようにいつも準備を整えています」

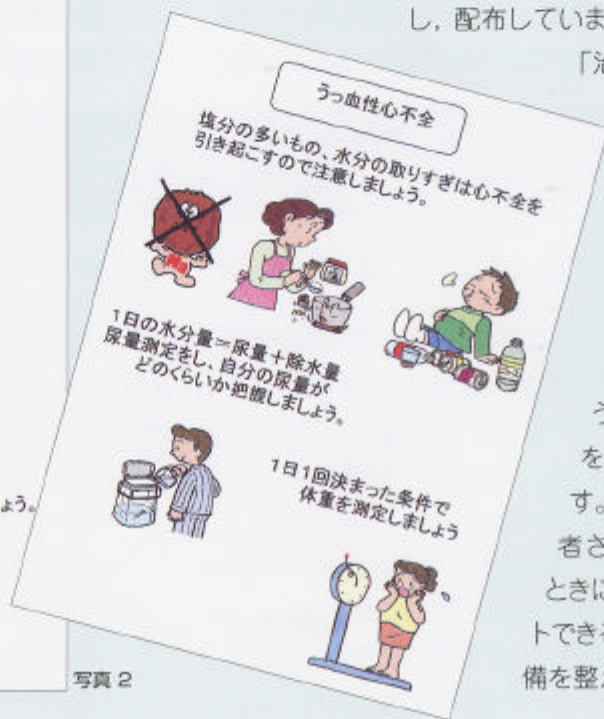
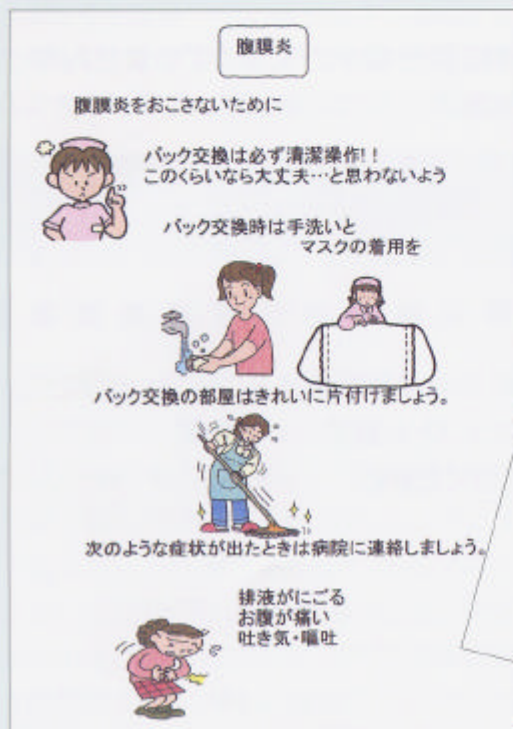


写真2